

民報 藤島

2022年 5月22日

第1350号

編集発行
日本共産党藤島支部

生活相談所
加藤 鉦一 (宝徳)
Tel.0235-64-3941
携帯090-8929-4221
HPは「藤島 加藤 鉦一」と検索で入力を。

発行経費にカンパをお願いします。民報配布者にご連絡下さい
(月200円程度)
5月 28人 10,593円
4月 45人 45,693円

デイビッド・マクフェイル (著・イラスト) 柳田邦男 (翻訳)

やめて!



デイビッド・マクフェイル 作・絵 柳田邦男 訳

男の子は、一通の手紙を書きおえると、封をとじ、切手をはり、ポストに出しにでかけました。
街を歩いていくと、頭上を戦闘機が通過し、

爆弾を落とす。
戦車が走り、敵の兵士が民家のドアを蹴破って侵入。
街頭で秘密警察が知識人を連行していく。

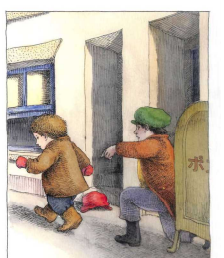
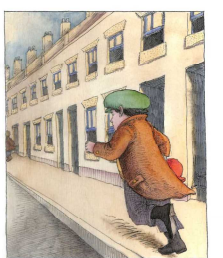
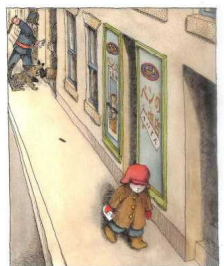
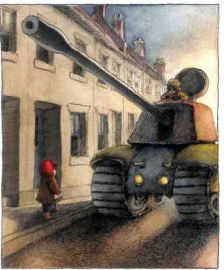
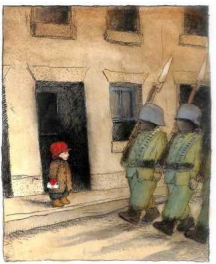
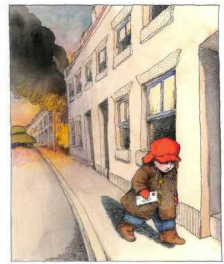
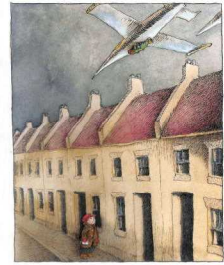
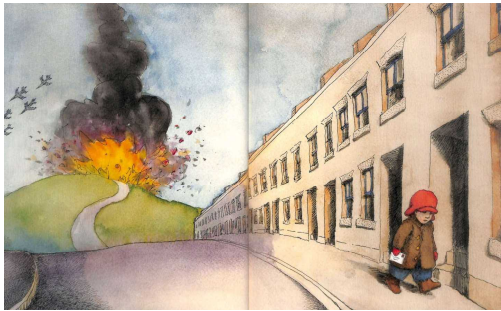
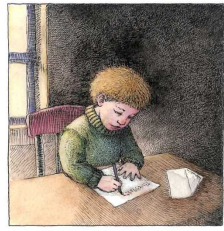
男の子はポストに向かうものの、不良少年に妨害されます。
男の子は「やめて!」と叫びます。
ひるまず敢然と叫ぶのです。

その気迫に気おされて、不良少年がひるむ間に手紙を投函。

すると、風景は一変するのです。
警察は市民にやさしくなり、軍隊は市民にプレゼントを贈るのです。(2面につづく)



デイビッド・マクフェイル 作・絵 柳田邦男 訳



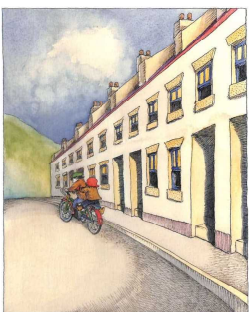
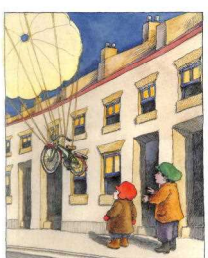
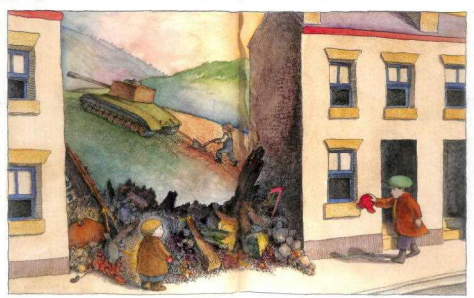
(1面からのつづき)

戦車はトラクター役になり畑を耕し、戦闘機は自転車を下ろし、やさしくなった不良少年が男の子をその自転車に乗せてくれる。

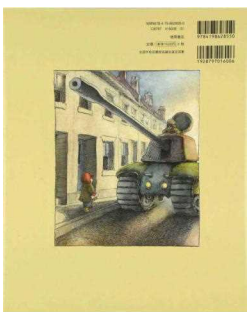
男の子が出した手紙は大統領宛で、文面が紹介されます。

「ぼくらの学校にはきちんとした規則があつて、突き倒したり殴つたりしてはいけないうのに、この国にはそういう規則がないのですか?」という内容です。

(2009年11月30日 発行・徳間書店)



ちが心を痛めている今、この絵本が注目されています。



絵本作家デイビッド・マクフェイルが、争いのない未来への願いをこめて描き、柳田邦男氏が表紙絵の強烈さに圧倒されて訳し、13年前に出版された絵本です。

ロシアのウクライナ戦争に、世界中の人た



ひと

日下部勇一 (庄内町榎島)

波瀾(乱)万丈の人生

青山 崇

■勇一、余目町議に立候補、母親は猛反対・寝込む

この頃、1972年(昭和47)2月、今間製作所は400人の大量首切りを行い、その中に共産党員や支持者も含まれていた。

妻も争議団の一人として、妊娠6ヶ月の大きなお腹を抱え、汽車で鶴岡まで通い、今間製作所の門前で、毎日

発行したビラを門前で配布した。

編集者に佐藤一雄さんがいる。彼はその後「良書センター鶴岡書店」を立ち上げ、新しい文化をつくり発展させる拠点となっていた。

お蔭で筆者も2冊出版することができた。勤めるなら今間製作所か市役所よと言われ、優秀な職員が多く、同時に共産党員初め革新

的な人も多かった。

市議会議員になった故関幸助さんらがいた。

さて、1970年代は、日本共産党から、

三川町・佐藤政弥さん・余目町・日下部勇一、鶴岡市水尾京子さんの初々しい人々が、市町村議員に挑戦した時代である。

しかし家族・親戚などから反対されスムーズに立候補できた人は少なかった。

勇一はその最たる人であった。

1972年6月、元

きびちよ



今年はどうなる

5月10日の朝の気温は、2度Cだった。田植えが最盛期に入ってこの温度です。八十八夜の別れ霜と言いますが、まだ心配です。去年は遅霜で一個も実の付かなかった俺の柿は、今年も霜の害が少し見えるようだ。

▲所で皆さんは、今年何日間うぐいすの声を聴きましたか。多分・そう言われれば聞いてねくなくって人が多いんじゃないでしょうか。

▲例年ですと、桜の咲き始めの頃から5月のいつ頃までか聞かれたものじゃないですか。どの集落に行っても聞かれたものが、今年の俺は、宝徳では何回か聞きました・位です。

▲桜の開花宣言は、去年より10日遅かったが、その後の低温続きで開花期間が長かった。だからと思っていたら、

余目町議会議員の故佐藤幸夫さんが、補欠選挙に立候補のお願いに、勇一の自宅を訪れた。

当然のことながら、母親は猛反対「3反百姓の家、しかも共産党からの立候補、父親もいないし、部落に顔向けできね。駄目だ！駄目だ！」

さらに「ポスターは剥いでやる」と怒り心頭で寝込んでしまった。勇一も、さすがの幸夫さんもびっくり仰天だった。

担当者には気の毒にも藤の花まつりの前に藤の花が満開ときた感じ。俺も出品を頼まれたんだが、盛りが過ぎたので断った次第。

▲今年の燕をどう思いますか。去年より少ないと思いませんか。ある自動車修理工場の社長さん。燕の数が毎年増えることから、巣をかける場所を一杯作って、工場を燕のアパートにしていたんだが、今年は満杯になつていないと言っ。

▲ある人が言ってたっけ。今年は虫の数がねーぞ・と。確かに、燕の子の成長に大きな役割を果たしていると思つていた足長トンボを、今年は一匹しか見えないんだ。これじゃ燕は卵を産めないぜ。帰る燕も親だけかな。

▲虫がいないとどうなる? 簡単に言つて、なり物がならねーって事なんだろう。梅のなりはどげだや。(石川)